

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

| | | |
|---------------------------------------|--|---------|
| 名称：アスク新杉田保育園 | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：浅場 由紀子 | 定員（利用人数）：40名（利用人数：39名） | |
| 所在地：〒235-0032横浜市磯子区新杉田町7-11アビシニー新杉田1階 | | |
| TEL：045-770-6731 | ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/shinsugita/ | |
| 【施設・事業所の概要】 | | |
| 開設年月日：2008年4月1日 | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社日本保育サービス | | |
| 職員数 | 常勤職員：9名 非常勤職員：5名 | |
| 専門職員 | 保育士：11名 | 栄養士：1名 |
| | 調理員：2名 | |
| 施設・設備の概要 | 保育室：2 | トイレ：1ヶ所 |
| | 調理室：1 | 事務室：1 |
| | 園庭：有 | |

③ 理念・基本方針

【保育理念】

「未来(あす)を生きる力を培う」自分らしく、生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います。

【保育方針】

一人ひとりに心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細やかな保育を行うことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための生涯にわたる生きる力の基礎を育みます。

●自ら伸びようとする力を支えます こどもが本来も持っている育つ力に注目し、周囲の環境に興味・関心を持って自ら関わろうとする意欲を支え、自信を育みます。

●五感を養って感性を豊かにします 身近なものに関わり、五感を使った実体験を積み重ねることで、豊かな感性を高め、思考力・想像力を育みます。

●後伸びする力を育みます こどものありのままの姿を受け止め、共感し接することで、探求しやり抜く力、感情をコントロールする力、人と関わる力を育みます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【保育プログラム】園では、こども達の「生きる力」「伸びる力」を育むことを目的に、それぞれの年齢・発達に合わせた多様な保育プログラムを実施しています。全てのプログラムは、こどもたちへの教育ではなく、楽しむ心や学ぶ楽しさを育むプログラムとなっています。

①えいごプログラム 楽しい歌や本を通じて英語に親しむ時間「英語って、たのしい！」こどもたちにそう思ってもらうことを大切にしています。当社では、英語を教科としてではなくコミュニケーション手段の一つと捉えています。最優先に考えてい

るのは、こどもたちに「英語ってたのしい！」という思いを持ってもらうこと。そこから段々とこどもたちの自主性を促していき、結果的に「話したい！伝えたい！」を引き出すようなプログラムとなっています。

②体操プログラム 運動遊びを通して生きる力を育みます。当社の体操は、あそびを中心とした活動に重点を置いています。そのうえで、さまざまな動作を習得できるオリジナルプログラムを作成し、専任講師が細やかな指導を行っています。さまざまな動作を習得することで、たくましさやしなやかさ(巧みさ)を養い、自身の身を守る動き「危機回避能力」や判断力、複合的複雑な動きが必要となるスポーツなどに対しての「対応力」を高めます。

③おんがくプログラム 当社のおんがくプログラムでは表現活動をしながら無理なく10の音楽要素を身につけるとともに、ワークなどを通じて音価や五線・音階に対する理解を深め、音符を読むようになることをめざします。表現活動では音楽を全身で体験するリトミックを行うことで、五感を刺激し、心を解放してのびのびと生きる力を養います。5歳児を中心にSTEAMS保育を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 評価実施期間 | 令和5年8月1日（契約日）～ 令和6年3月19日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 8回（2018年度） |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの主体性が育まれるように保育を行っています

園の規模が小さい分、アットホームな保育を実施しています。環境的に子どもに目が届きやすく、一人ひとりの子どもの特性に見合った保育が実施されています。園では子どもの主体性を育めるように、子どもの言葉や行動に対してまずは肯定的に受け止めています。そして、その後どうしたらよいかを子ども自身で考えられるような関わりをしています。言葉で表現ができる年齢の子どもには、自分の気持ちを言葉に出して伝えられるように促し、気持ちを理解できるよう子どもの話をよく聞くことに努めています。職員は、日頃から認められることで、子ども自身が何事にも意欲を持ち主体性が育まれるように子どもと向き合っています。

2)職員間のコミュニケーションを大切にしています

園では、職員間のコミュニケーションをとることを中・長期計画に定めています。まず計画の初年度に乳児会議、幼児会議、パート会議で職員間の保育観を伝え合うことから始め、自分の考え、思いなどを話しやすい環境づくりを行いました。このことにより、年々保育について報・連・相の連携がとりやすくなり、以前よりも子どもたち一人ひとりに目が届きやすくなっています。お互いに意見を取り入れ、園全体で保育の質が高められるように、職員間のコミュニケーションを大切にしています。

3)子ども中心の主体的保育を実施しています

園長は、一人ひとりの子どもの思いを受け止め、気持ちに寄り添って保育にあたることを職員に伝えています。毎月の月案会議や職員会議では、各クラスの子どもたちの様子を報告し合い、職員間で連携を図りながら全職員で全園児を見守る体制づくりに努めています。子どもたちは、ありのままの自分の姿を受け止めてもらいながら、英語教室や体操教室、音楽活動など、様々な体験を積み重ね、伸び伸びと園生活を送っています。

4)おむつ交換の環境を検討することが期待されます

今年度、保育室の環境を変え、特に、0、1歳児の部屋は仕切りに角のあるものではなく、パーテーションに変更しました。おもちゃも子ども達が興味のあるものを自分で選び遊べるよう工夫をしています。サークルも木製のものを使用し、温かみのある、子ども達が過ごしやすく安心できる場所となっています。しかし、スペースの問題があり、排便時のオムツ交換は職員用トイレを使用し、床にマットを敷いて行っています。折り畳み用のオムツ交換台などの導入も検討されるよう期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は細かく見て頂きありがとうございました。職員と共に話し合いを重ねて評価のコメントを書かせていただきました。また、当日も園内だけでなくしっかりと聞き取りして頂いたことが書かれていて嬉しかったです。会社の基本理念を保護者の方に明確にお伝えし理解していただくよう今後も努力を続けてまいります。今年bになってしまった部分を職員一同で見直ししていかれるよう精進していきたいと思えます。これからも子どもたちの笑顔のために園の規模が小さく子どもたちに不自由な思いをさせてしまっているところはあるかと思えますが、今後もしっかりと設備整備を図り保護者の皆様に選ばれる園にし、子どもたちが過ごしやすい環境を作っていければと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり